

## 新科目「日本語と日本事情」の授業評価

国語専修・佐藤栄作

### 1. 授業の概要

「日本語と日本事情」は、改組された新しい課程である総合人間形成課程の国際理解教育コースに開講された新科目である。日本人が普段気にとめない空気のような「日本らしさ」のうち、日本語に関わる事象をいくつか取り上げ、その「日本らしさ」「日本語らしさ」を確認するという内容の科目（2年生対象）である。

この内容は、日本語教育に携わる者として必須の事柄と考える。それゆえ「日本語教員養成カリキュラム」の重要な科目の一つと位置づけている。と同時に、21世紀の中学高校の国語科教員（小学校教員も）にとっても必要な知識・視点であると考え、本年度は、学校教育教員養成課程の「日本語学特講」の中身を「日本語と日本事情」とし、合併で実施した。

よって、本年度の本講義の受講生は、国際理解教育コースの学生、日本語教員養成プログラムの取得を目指す学生、国語科教員を目指す学生からなる。具体的には、国際の2年生7名、国語の2年生8名、その他の教員養成の学生7名、以上以外の学生3名、計25名だった。

本年度取り上げたテーマ・事柄は、「韻文・575」「発音」「言葉遊び」「オノマトペとマンガ」「文字・表記と語種」「ケータイ・ワープロ」「待遇表現・敬語」「人名・ネーミング」。

### 2. 授業の目的・到達目標

「日本語と日本事情」と「日本語学特講」とは、課程が異なるから、授業の目的も異なるはずである。しかし、1. で触れたように、日本語と日本らしさ（日本人の考え方、日本文化等）についての知識を得、客観的な把握を試みるという点では、両者は重なる。相違点は、受講者が「国際交流に関わる仕事に従事する者、あるいは外国人に対する日本語教師」を目指す学生か、「国語科教員（学校教員）」を目指す学生かにある。

よって、到達目標も以下の3点については両者に共通とした。

- (1) 日本人の生活と日本語との関わりについて、自覚的にとらえられるようになる。
- (2) 日本語に関わる社会的な事件・現象について、強い興味。関心を感じられ、自らの考え

を述べることができる。

- (3) 日本語と日本文化・日本社会の特性について、自らの考えを述べるができる。
- 国語教員志望者を対象とする「日本語学特講」には、以上の3点に、新学習指導要領を配慮し、
- (4) 国語科教育における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を扱う授業を担当できる。
- を加えた。

### 3. 授業評価法

授業評価は、最終回に実施した学生アンケートによる。アンケート項目の決定を含め、担当者（佐藤）が作成・実施した。アンケート項目は以下の通り。

- 1 講義内容は科目名にふさわしかったか。
- 2 取り上げたテーマで最も興味深かったのは？
- 3 もっと広く深く調査・分析したかったのは？
- 4 取り上げてほしかったテーマは？
- 5 改善すればよいと思ったことがあれば。

### 4. 授業評価結果

アンケート回答者は24名。

- 1 科目名に対する講義内容  
ふさわしかった……………22名  
無回答……………2名

この意図は、「日本語と日本事情」として受講した者、「日本語学特講」として受講した者が、それぞれの科目として満足できる内容であったかを問うところにあった。回答としては満足のいくものであるが、問いは、科目名でなく、「授業の目的」に対してどうであったかとはっきりたずねるべきであった。

- 2 興味深かったテーマ  
「韻文・575」……………1名  
「オノマトペとマンガ」……2名  
「ケータイ・ワープロ」……13名  
「待遇表現・敬語」……………1名  
「人名・ネーミング」……………13名

複数回答の者もいたため合計が24名を超える（以下も同様）。この問いについては、無記入の者が一人もいなかったことがうれしかった。

結果としては、二つのテーマに集中した。「ケー

タイ」については、実際に手書きとケータイとの表記の差について実験したこと、「ワープロ」については、ワープロ誕生のビデオを観たこと、「人名」については、人名漢字の変遷と命名の変遷について資料を配付したこと、そうした授業内容・活動が興味を引いたようだ。

「最も興味深かったのは」とたずねたから、偏りが生じるのはしかたないともいえる。しかし、それぞれのテーマで、充実した内容になれば、受講生の個性に響いて、もう少し分散するかもしれない。そういう意味で、支持の少なかったテーマについては、次年度はさらに工夫したい。

### 3 もっと広く深くやりたかったこと

「発音」…………… 2名  
「文字・表記と語種」……… 3名  
「ケータイ・ワープロ」…… 4名  
「待遇表現・敬語」……… 5名  
「人名・ネーミング」……… 13名

ここでは、不満、不十分な点を知りたかった。項目2になくてこちらに挙げたテーマについては真摯に受け止めたい。「待遇表現・敬語」も、項目2では1名だったが、ここでは5名に増加している。学生は、「敬語」に不安を持っており、何が正しいのかについてもっとしっかりと勉強したいようだ。次年度のこの授業の改善点とするだけでなく、この科目に続く3年生対象の授業の中で可能なら対応していきたい。

最も多かった「人名・ネーミング」は、面白かったのもっとやりたかったという感想。ただ面白ければ目的・目標が達成されたとはいえない。注意したい。

### 4 取り上げてほしかったこと

「もっとマンガを」1名、「名前の付け方の背景を」1名、「中国語のピンイン(発音の記号)について」1名、「漢字はまだ生まれているのか」1名、「外国と日本の冗談の違い」1名、「漢文の扱いは?漢文は中国語?」1名、「方言・愛媛の方言」2名、「アクセントの地域差」2名、「ネットスラング・流行語」1名、「日本語の語彙・意味」1名、などの希望があった。「日本語の語彙・意味」は科目が消滅したので、来年の「日本語学演習」の中心の一つにしたい。「方言、日本語の地域差」は、1年生の「日本語概説」で少しだけ触れるが、卒業までにはもう少し学べるようにカリキュラム全体を見直したい。「マンガ」「ネット語」などは次年度のこの授業で充実させたい。

### 5 改善点

内容についての改善は、すでに項目3,4があったためか指摘はなかった。毎回、ワークシートを作成し、回収して次にコメントを付けて返したが、

それがうれしかったとの記述があった。

板書について改善の指摘があるのでは思っていたが今回はなかった。授業内容がきちんとした板書を必要とするものではなかったからだろう。ただし、自分としてはさらに改善の余地はあると思っている。

シラバスとの相違についての指摘もなかった。シラバスと実際の授業とでは、以下の相違点があった。

①「日本語とテレビ」「日本語とマスメディア」を取り上げなかった。

②取り上げる順序が違った。

③最後が発表でなく、レポートになった。

①については、時間配分のため割愛した。大きな反省点であるが、授業の目的からすれば、この二つのテーマは優先順位の低いものであるとわかった。次年度も、扱いは小さくていいと考えている。②はそれほど大きな問題ではないと考える。

③も発表時間が確保できなかった。発表に代えたレポートの課題は、以下のどちらかとした。

A「取り上げたテーマのうち、特に興味関心をもったものについてさらに調べて報告せよ」

B「取り上げなかったが興味関心のあるテーマ(「日本語と日本事情」にふわさしいテーマ)について調べて報告せよ」

レポートは、中にはやや安直なものもあったが、アンケート項目3,4で答えたことを、そのまま実践してくれたものが多く、次年度の授業ための資料として使えるものがいくつもあった。成績は、毎回の活動とこのレポートで行った。

## 5. まとめ

新科目としては何とか及第点ではないかと思う。しかし、この授業でとりあげる「ネタ」は学生にとって面白いものだから、それを面白がってくれたということだけでこちらが安心してはいけない。要は、目的・目標に対して、それがどこまで達成できているかである。授業評価アンケートも、もっと、到達目標そのものと連動させ、その達成度・達成感をたずねるものにしなければと反省している。次年度はさらに内容を精選し、時間配分を考え、授業のレベルアップを図りたい。

内容を充実させるための重大なポイントは、外国語や外国のモノ・コト、外国の状況をどれだけ引き合いに出せるかだと思う。しかしこれはなかなか大変である。急に外国語が堪能になったり、外国の知識が増えたりはしない。今年一度、中国人留学生と中国留学経験者に来てもらったが、学生にも好評だった。そうしたことをもっと取り入れ、活用できればと考えている。